

事例研究報告

**特別支援学校小学部児童が排尿後
10秒以内に流水ボタンを押すため
の支援**

教員の考え

「トイレの流水ボタンを自発的に押すことが確実でなく、活動が滞ることが多いので、スムーズに一連の流れを作りたい。



児童の実態

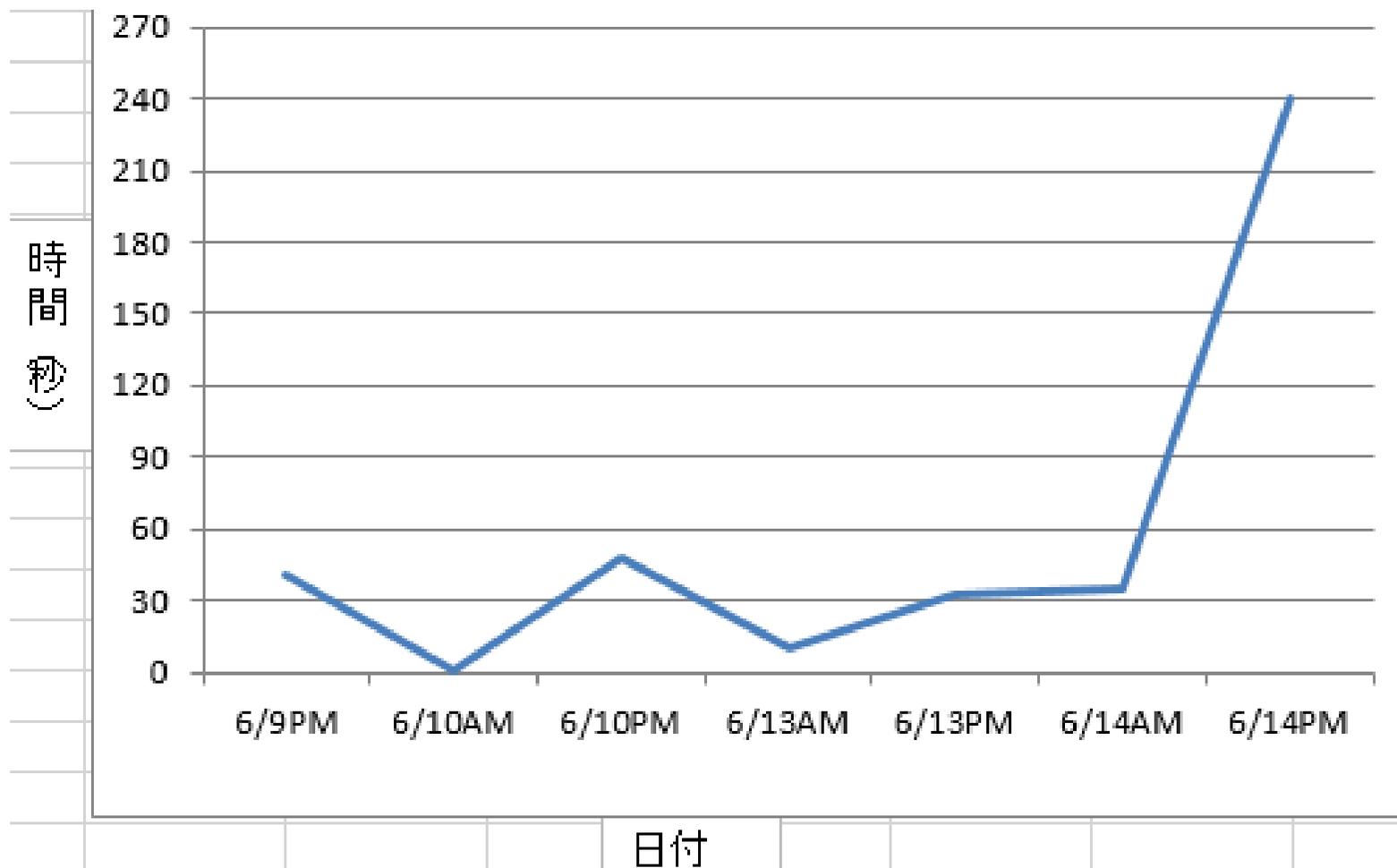
- 小学部児童 自閉症
- 発達年齢 2歳11ヶ月
- 行動の特徴 活動が滞りがち
- 好きなこと 音楽、関わり遊び
- 苦手なこと ルーティンが崩されること

アドバイザーからの助言

- 本児の行動のきっかけが、教員の声かけになっているのかもしれませんが。
- **言語的称賛よりも、強力な好子**を使い、トイレをする行動の連鎖を作ってみましょう。



指導前の記録



ズボンを上げた後、流水ボタンを押すまでの時間

指導目標の見直し

- ・排尿後、ズボンをあげた後、10秒以内に流水ボタンを押すことができる。

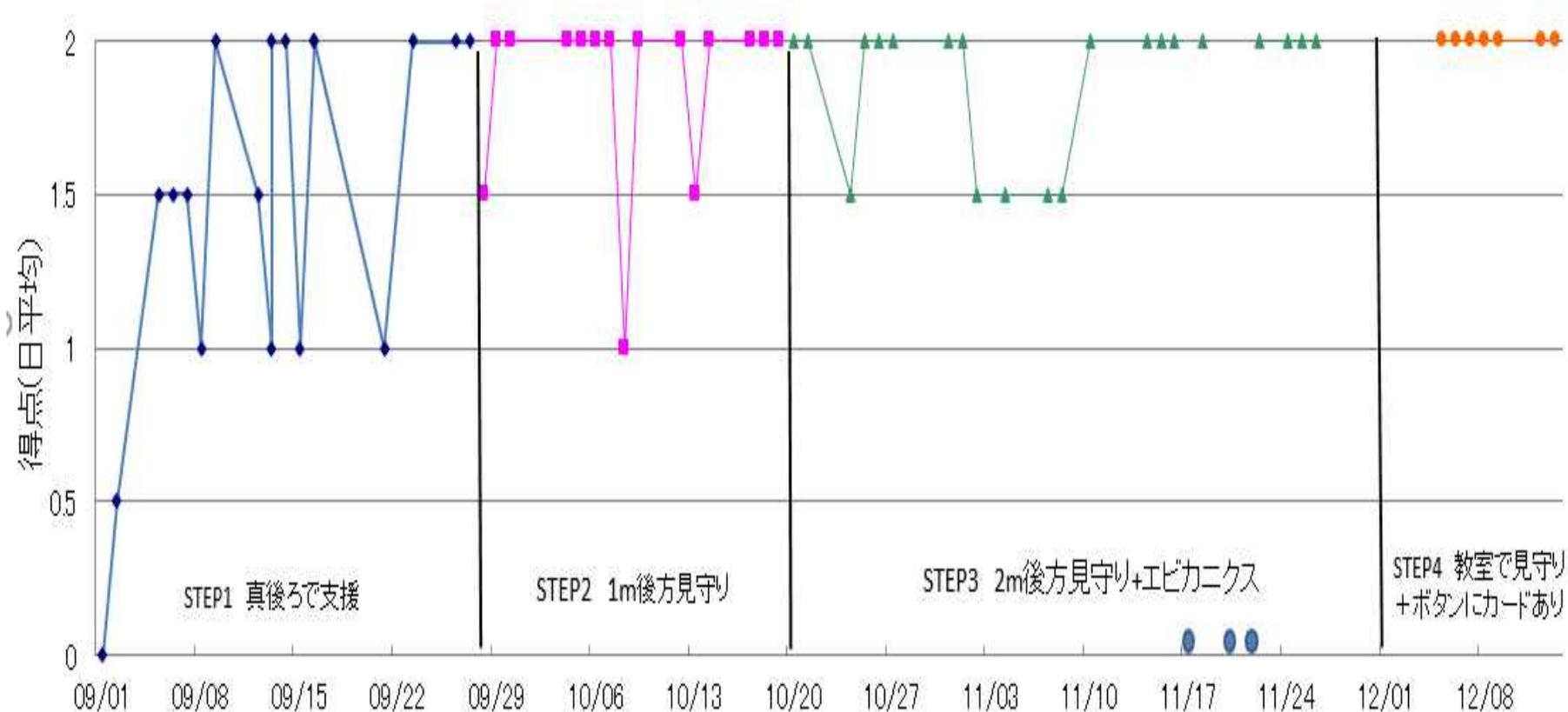
指導目標の課題分析

- Step1:真後ろで身体支援
- Step2: 1m後方で見守り
- Step3: 2m後方で見守り+活動後のスケジュールに「動画」あり
(好子)
- Step4:見守りなし+活動後のスケジュールに「動画」あり+流水ボタンに「動画」カードあり



指導1の成果(1)

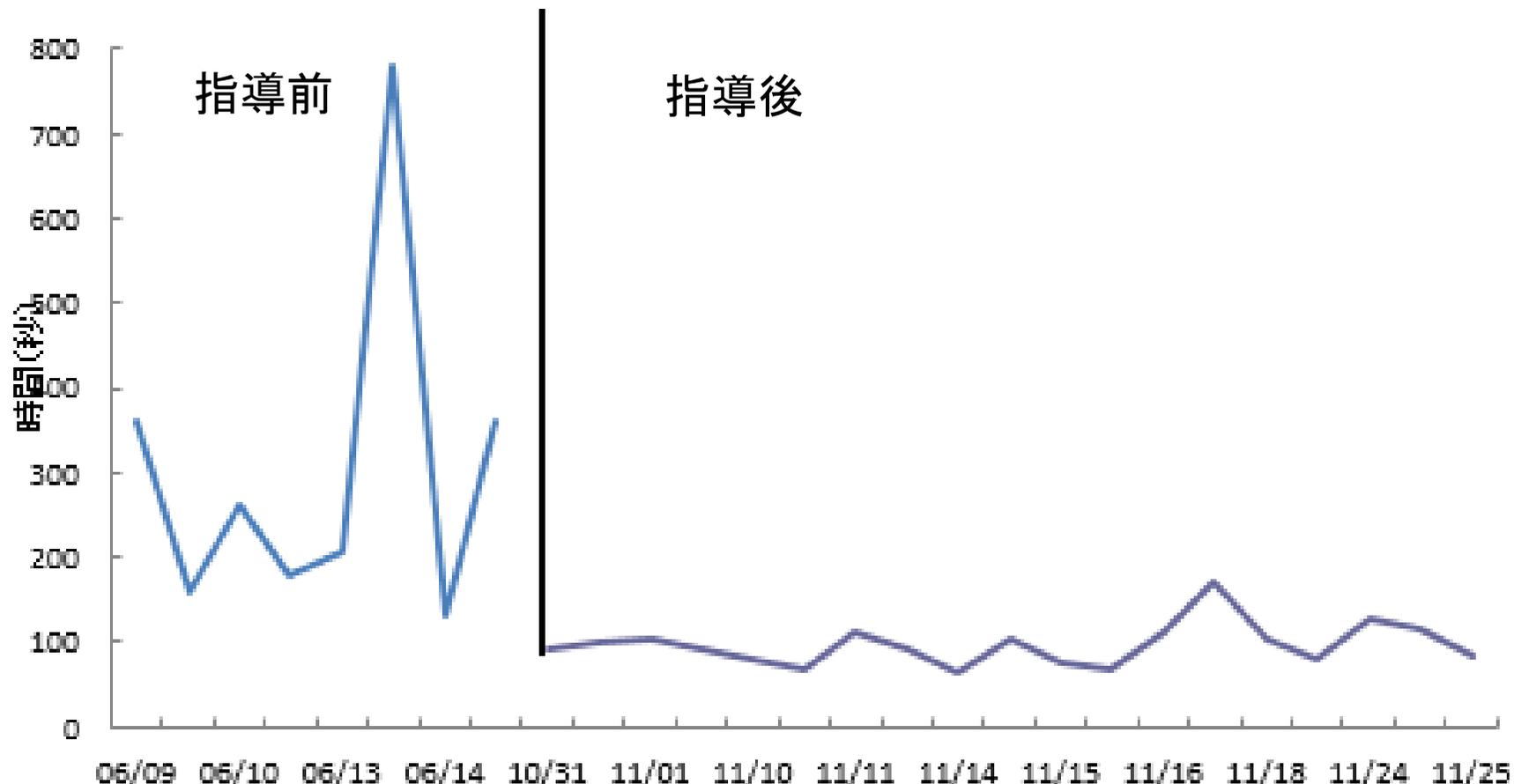
自発的にボタンを押すことができるようになった。また、流水ボタンにカードをつけておくことで押し忘れもなくなりました。



自発的に流水ボタンを押すための支援

指導1の成果(2)

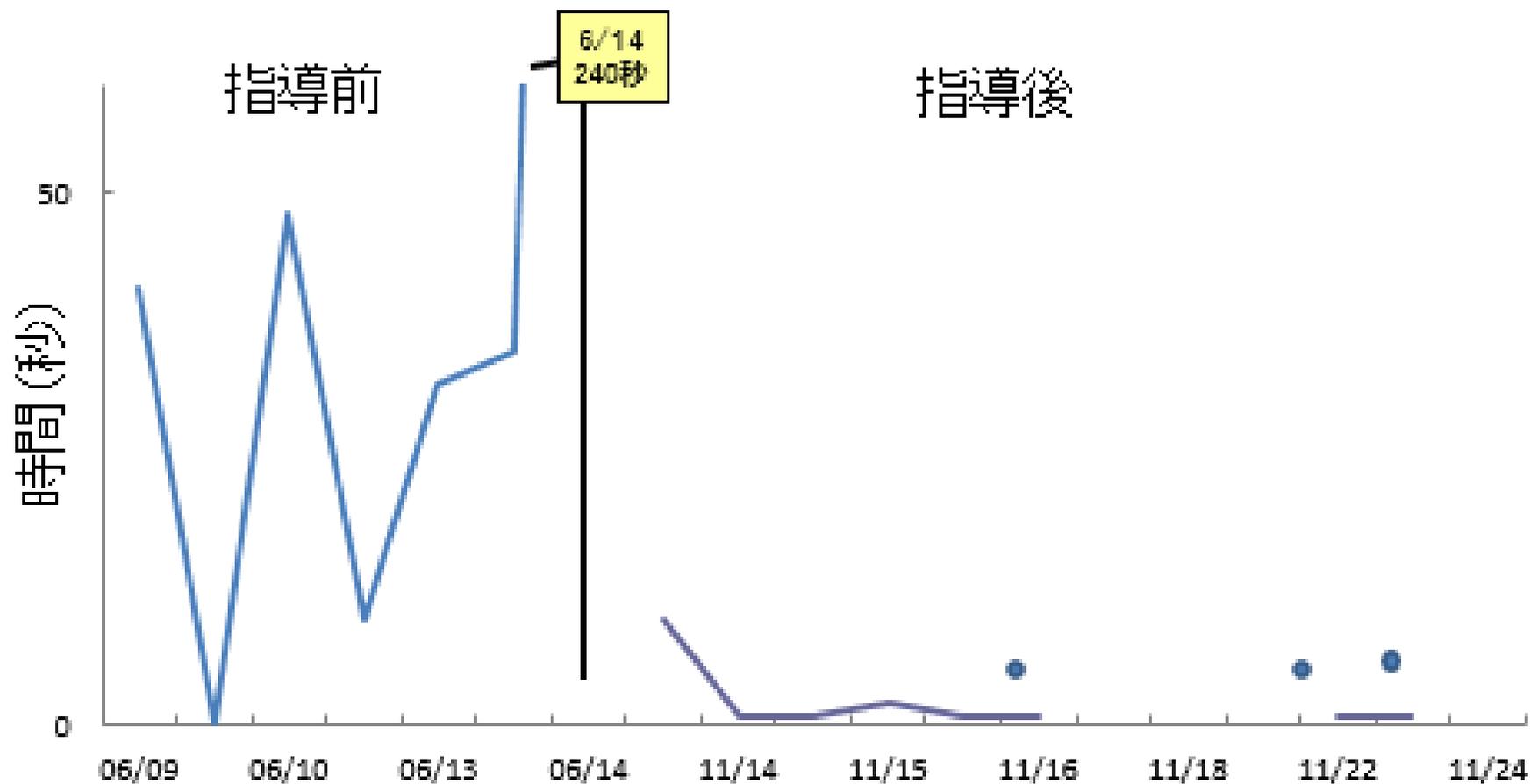
振り返りシート指導前平均5分20秒程度かかっていたトイレの一連の行動が、平均1分30秒程度でできるようになりました。



トイレの一連の動作にかかった時間

指導1の成果(3)

直前行動後、自発的に流水ボタンを押すことが平均1.5秒でできるようになりました。



直前行動後流水ボタンを押すまでにかかった時間

ここが成功のポイント



- 効果的な好子の活用と支援のフェイドアウトの相乗効果で、トイレをする行動につながった。
- 着替え場面でも、行動を連鎖させることで一連の活動が一人でできるようになった。